

報告書

本研究に多大なるご理解とご支援を賜りました故川上宏先生、ご遺族の皆様に厚く御礼申し上げます。

1 研究題目

「成長の機会」としての受傷経験－女子ラグビープレイヤーを事例に－

2 研究について

「受傷」はアスリートにとって、単にケガをするだけでなく、競技に対するモチベーションの低下や再発に対する不安感などの精神的変化や、今までできていたことができなくなるといった身体的変化などの様々な変化とその葛藤をもたらすものである。

本研究では、女子ラグビープレイヤーの受傷経験に焦点を当て、受傷から復帰までに生じた心情の揺れや、身体的・精神的変化について明らかにした。

女子ラグビープレイヤーはどういった人物か、プレイヤーたちの受傷経験はどのようなものであったか、受傷経験がその後に人生にどのような価値を持つのかといった3つの調査疑問を立て、調査を進めた。

2021年3月上旬から4月下旬にかけておこなった1期調査では、受傷による6カ月以上の競技離脱経験のある女子ラグビープレイヤー5名を対象にZOOMを使用したインタビュー調査をおこなった。また彼女らが受傷期にどのようなサポートを受けていたのかを明らかにするべく、2021年8月上旬から9月中旬にかけて2期調査として、スポーツトレーナー2名にインタビュー調査をおこなった。

受傷経験を通じて、心情の大きな揺れ動きがあったのは、受傷直後とリハビリテーション期間であった。特にリハビリ期では、プレイヤー4名が、リハビリテーションの進度に対する焦りや、復帰への不安があったと回答した。受傷部位の痛みを伴うリハビリテーションに加え、目指す試合や目標、周囲の人からのプレッシャーが重なり、「苦しい」と感じていた。

この不安や焦りなどのネガティブな感情を抱いたプレイヤーを支えたものとして、応援してくれる家族やチームメイトの他に「スポーツトレーナー」（以下、トレーナーとする）の存在が挙げられた。

これに対し、トレーナーは、毎日のリハビリテーションやケアの内容に変化を付けることで、

プレイヤーを飽きさせない工夫をしていた。また、プレイヤーの心身の不安や悩みを早期に把握するための積極的なコミュニケーションがなされていた。

これらの取り組みは、プレイヤーとの良好な信頼関係の構築に役立っており、受傷プレイヤーの早期の競技復帰に向けて欠かせないものである。自身も受傷の経験があるトレーナーからは、自分の実体験を受傷プレイヤーに話さないなどの取り組みがきかれた。この背景には、プレイヤーの感情を決めつけると、信頼関係を築くことが難しいといった点がある。

このように受傷プレイヤーの競技復帰に対するモチベーションは、トレーナーの意識的な取り組みによって支えられていることが分かった。

受傷プレイヤーたちは受傷経験を通じて、身体面、精神面で様々な変化が生じた。

精神的变化では、自分の行動やプレイが他人にどうみられるのかを考えるようになったという客観視を核とするポジティブな変化が挙げられた。

また身体的変化では、受傷を通じて走るスピードが遅くなったというネガティブな変化もきかれたが、自分のプレイスタイルを受傷前と変えるといった「変化」を受け入れる取り組みがされていた。

受傷後数年が経過した現段階において、プレイヤー4名は、「人間として、アスリートとしての『成長の機会』であると、受傷経験に対して肯定的な意味付けをおこなっていた。受傷経験を通じて得たものとして、競技の魅力の再確認や辛いリハビリを乗り越えた自分に対する自信などを挙げた。受傷経験が自分の人生にとって「価値のある」経験であったことが分かった。

3 会計報告

- ・文献費（先行文献や関連書籍などの購入）
- ・消耗品費（文房具やコピー用紙などの購入）